

平成27年度 事業報告

● はじめに

平成27年の国際環境は益々厳しさを増し、経済面では原油安・中国経済の不安定さ、政治面ではアメリカの影響力低下、ロシア・中国の覇権主義の台頭、西欧の地盤低下、世界各地での宗教に名を借りたトラブルと明るさにかける一年でした。

国内的にはアベノミクスの浸透が図られ一部成果はみられるものの、国民全体としては本来の意図からはいまだ不十分の状態でありました。

身近な社会生活においては、少子高齢社会の急速な進展により平成27年3月には高齢化率は26.7%に達し、団塊の世代が後期高齢期を迎える2025年（平成37年）問題もさし迫っております。

大阪府高齢者大学校（以下高大という）は入学時2,490名の受講生を受け入れ、大阪区民カレッジ184名、法円坂子どもプラザ46名など、高大の3本柱をグループとする高大グループ全体としては2,720名の仲間が集うことが出来ました。

今年度は大阪府アクティブシニア政策勉強会・健康長寿学研究会で「高齢者の生活課題を考える」をテーマとして計6回の研究会を開催しました。

また、昨年度検討を重ねてきた5年先を見据えた戦略も策定委員会での検討を踏まえ、いよいよ戦略アクションプランの実施に向けて取組んで参りました。

● 基調報告

1. 平成27年に認定NPO法人の資格取得の予定でしたが、事業報告の規定内提出が遅れて不可となり、再度提出で関係者一同誠に忸怩たる思いがありました。会員の皆様をはじめ関係者に深くお詫び申し上げます。

現在、平成27・28年度の実績に基づき平成29年春の認定取得を目指します。今後ともご協力のほど宜しくお願いいたします。

尚、お預かり致しております寄付金232名696,000円につきましては、既にご連絡の通り、子どもお絵かき教室、四天王寺の歴史に学ぶ、科学実験講師養成講座等に活用させて頂いております。

2. 本年度の事業において共催頂いている大阪府行政機関や社会福祉協議会とは機会あるごとに更なる協働を展開しました。
3. 同窓会連合組織である「校友会」との連携を深めるため、秋には合同で山陰地方を旅行しました。
4. 養父市との連携協定に基づく交流を継続実施し、大阪府立体育会館での物産店は好評で殆ど完売でした。イベントだけでなく日常活動のなかでも実施出来るシステムをつくっていきます。
5. 教育部門では、先駆的カリキュラムを開発し、講座改革委員会の精力的な活動により科目数は59科目から64科目に増加しました。

東日本被災者支援大学校として平成24年（2012年）より受講生を優先的に迎え入れ、東北には毎年被災地支援ボランティアツアーを実施しています。

- 子ども活動基金を活用する社会参加活動として、法円坂子どもプラザ及び科学実験講師養成講座を一年間実施して参りました。引き続き実施したいと考えています。
- 事業部門では、文化・音楽・芸能イベント、レクリエーションの活動を強化するとともに、助成金事業を継続し社会事業を推進して参りました。
- 念願の高大「校歌」を制定し、高大祭・修了式で全員が斉唱し絆を深める事が出来ました。
- 姉妹校の大阪区民カレッジは、順調に事業を拡大 5 地域で学習の場を設け、地域に密着した形で展開しております。
- 関西シニア大学校交流会（大阪府、京都府、滋賀県、兵庫県、奈良県、徳島県）を推進しました。又海外との交流も行い、韓国から 2 件の視察がありました。

● 教育部門

- 受講生 2,490 名（被災受講生 12 名含む）を迎え入れました。教務委員会のメンバーを一新し、クラスディレクター（以下 CD）会議と共に毎月開催し、体制の強化、改善を図りました。曜日 CD 会議も毎月開催するなど、CD との連携を強化し、身近な課題解決に努めました。4 回目となる CD 研修会も曜日ごとに再任者/新任者を別けてきめ細かく実施するなど、更に内容を充実強化致しました。
科目数は、64 科目で運営いたしました。（平成 26 年度は、59 科目）
- 本科教務部・実践研究部は曜日担当として部長を 5 名および副部長を 2 名配置し、クラス運営の強化を図りました。教科研究部は分野別に部長を 7 名配置し充実してきたことにより、全体の最適化が図れる体制になりました。
- カリキュラムでは、教科研究部を中心に、講座改革委員会を運営し、受講生ニーズを的確に把握し、魅力ある新規講座を 6 科目開設しました。
- 学習事業推進部では、主たる行事毎に受講生が主体となり高大と協働体制で推進できるように教育部門のメンバーが受講生代表委員を支援運営いたしました。今年度も早めに学習事業実行委員会を立ち上げ推進いたしました。
- 東日本被災者支援大学校として今年も交流会を毎月実施し、被災受講生（12 名）の方々との交流を図ることが出来ました。
- 「法円坂子ども教室フェスティバル」、「法円坂子どもプラザ」、「パソコンお絵かき教室」を行い、子どもたちと世代間交流を実施しました。
- 高大と校友会とは、両輪との方針を实践すべく、SA クラス、実践研究部クラスとの交流を図るなど校友会との連携を強化した活動を実践いたしました。

<本科教務部>

- 本科は 39 科目から 42 科目に増設し、1,713 名の受講生を受け入れました。継続して CD は 2 名体制でクラス運営を行い体制の強化を図りました。午後に行うクラスミーティングは、本音の議論、楽しい雰囲気づくりを目指し一年間を通じて良い仲間づくりを継続して展開しました。更に、校外学習を併行し、社会への参加活動についても充実させるべく授業を推進しました。
- 4 年目の取り組みとなる高大・白熱教室をさらに進化させるべく取り組み、受講生の

評価についても改善しました。講師陣に対してもCDを通じて、相互検討を行いレベルアップを図りました。今後も、受け身型の学習スタイルから能動的に人前で闊達に発言できる学習スタイルが少しでも身につくように授業の運営を講師、CDと共に進めて参ります。

3. 講師交流会を5月、11月の2回実施しました。交流内容を更に充実させるため、曜日別から分野別に切り替えて行いました。今後、更に多くの講師の方々に出席してもらえる様に運営して参ります。
4. 曜日別CD会議を毎月実施し、情報交換、問題提起・解決を図ることができたと共に、CD間の連帯感を高め、授業の円滑な運営に繋がりました。

<実践研究部>

1. 科目数は22科目（シルバーアドバイザー養成科3講座含む）777名を受け入れて開講し、前期からの「学習としての社会参加活動」の趣旨を受け継ぎ、各科独自の社会参加活動を実践しそれぞれ効果をあげております。
2. 学習成果を活かした社会活動が多岐、多方面にわたり社会・地域への活動が進みました。

<教科研究部>

1. 5年先を見据えた戦略の趣旨に沿った活動を行いながら、2年後の2017年度の科目案、講座予定日等を2月までに策定しました。
科目案策定過程において、新規科目についてはカリキュラムの内容、講師候補、リード文等まで詳細な検討を行い、また、現行科目についても内容を精査し、講座改革委員会での審議が容易に行えるデータを準備しました。
2. 本年度の科目は、講座改革委員会の中核部署として魅力ある科目や科目力アップを念頭に7月末までに新規科目3科目、中止科目4科目の63科目に絞り込みました。そして、カリキュラム作成過程に深く関与しながら63科目のカリキュラムを仕上げると共にカリキュラムの質を高める様に努めました。
同時に、募集委員会にも全面的に参画し募集要項策定過程で大いに寄与しました。
3. 魅力ある科目創りを目指し、講座改革委員会内に新たに分野別専門部会を設け、より充実した審議が可能な組織体系にしました。
そして、魅力ある科目創りの過程で専門委員の声を反映し易くしました。
4. 人財バンクシステムを検討し、高大ならではの魅力ある講師発掘・講座開講が容易になる様にしました。
5. 音楽分野、医療分野の特別講座を開講し、受講生の知識・趣味の幅を広げる様に努めました。また、次年度には文学分野で11回シリーズの市民公開講座を企画しました。

<学習事業推進部>

1. 遠足、スポーツ交流大会、高大祭、社会への参加活動、学習成果発表会、修学旅行などの学習事業では、受講生の自主性と運営の一部改善を実施致しました。
また、クラブ活動の充実を強化し、自らの趣味と経験を基にした仲間づくりを推進

しました。

2. スポーツ交流大会及び高大祭の実行では、学習事業実行委員会が推進母体となって受講生、校友会、大阪区民カレッジと一体となって実施致しました。更に本年度も養父市との連携協定の一環としてスポーツ交流大会へ特別参加を頂き、昨年以上に参加者からも良い評価を得ました。

<校友会連絡部>

1. 高大との両輪としての認識を持ち、校友会組織として校友会の説明、案内を行い、新しく「SA ネット大阪」と「ファインエイジの会」が加入いたしました。同窓会連協及びSA連協は、受講生であっても入会可能というアピールを行いましたが、受講中であるという意識が強く、その見地から入会が伸びず、この点を鑑みて本年度の反省とし、次年度の範とします。
2. 高大との一体感をもった各イベントに対し、校友会の入会募集活動を推進いたしました。同窓会連協の「文化祭」や「教養講座」の参加協力のアピールを行いました。高大との共催の親睦一泊旅行には全体で96名参加し、高大生20名弱の参加で大いに親睦を深めました。また、高大祭への協力として模擬店だけでなく、各地区の役員や会員が数多く参加いたしました。

<大阪区民カレッジ推進部>

今期第3期は、従来の城東校、天王寺校、西校に加えて、新設された中央校・北校2校は順調に立ち上がり、5校体制、185名の受講生を受け入れました。地域をよく知り、郷土愛の熟成、地域参加活動の実践への学び、そして地区との交流も進みました。

また、地域密着型カレッジの大阪府下への展開として、東大阪市に大阪府民カレッジ・東大阪校を開設するに至りました。広報活動ではホームページを新設し、募集活動や情報発信に取り組みました。

<子ども事業推進部>

1. 「法円坂子どもプラザ」は60名の小学生が年間8回の科学実験と、もの作りの体験学習を実施して、夏休みの「法円坂子ども教室フェスティバル」では300名以上の参加者で開催しました。
また、長居公園など府下各地で「科学実験ともの作り体験教室」を開催して2,500名以上に、感動体験とふしぎ体験で好奇心に満ちた「科学好きな」子どもたちを育てる事が出来ました。
2. 「ITパソコンお絵かき教室」は近隣幼稚園2か所、小学校6か所と府下各地区で開催して、子どもたち700人以上にパソコンでのお絵かきを指導してパソコンの基礎学習を広める事が出来ました。
3. 科学実験講師養成講座は11回開催し、修了生14名の科学実験講師が誕生しました。

<シニアスポーツ推進部>

1. 高大グループの生涯スポーツディレクター（以下SSD）は、100人を突破し、大阪府では過半数の人員を保有し、審判、競技運営等に高大のみならず、大阪府レクリエ

ーション協会の協力もいただき、地域社会へのシニア向けのニュースポーツのサポートを実施いたしました。

2. 大阪マラソンは、368名のボランティアが参加し、高い評価を頂きました。
3. (公財)日本相撲協会との提携で、大阪場所98名の参加がありました。
4. 脳トレの一環として「スポーツ健康麻雀大会」を8月16日と3月29日に天王寺区上本町6丁目の「天山閣」で開催し、おのおの28人、36名が参加しました。
5. 河内音頭大会9月6日久宝寺緑地予定でしたが降雨の為、同窓会連協八尾と東部と南部が参加予定していましたが中止となりました。

<東日本被災者支援大学校>

関西在住の被災避難者を受け入れ、一般受講生と共に新たな仲間と楽しく学習して頂くと共に心の癒される場として毎月交流会を開催、被災者相互の親交を深めました。

また被災者支援団体の会にも参加し、交流を深めると共に、5月開催された被災者交流会にも、展示ブースへの出典参加を行いました。夏には東日本被災地支援ボランティアツアーを行い、また地元の繋がりを持った活動の一環として『ヤマヨ水産』の「カキ養殖一口オーナー制度」にも第3期分として登録し、直送された牡蠣を楽しみました。

● 事業部門

<渉外部>

1. 文化庁の文化芸術振興補助金事業を活かした地域活性化事業で「四天王寺の歴史に学ぶ」をテーマとして以下の内容で開催し、多くの参加者を迎えました。
 - (1)「四天王寺の歴史講話と探訪」を平成27年9月27日に四天王寺において開催し、参加者は57名と好評でした。
 - (2)「雅楽・舞楽のひとつとき」を平成27年11月29日に大阪歴史博物館において開催し定員をオーバーするほど好評でした。
2. 文化庁の文化芸術振興費補助金事業で「伝統文化親子教室」を平成27年7月18日から11月28日の間で合計10回開催しました。高大祭では作品の展示発表を行い、参加者は延べ178名を数えることが出来ました。

<文化・イベント・旅行部>

1. 「第4回夏の音楽会」を平成27年8月29日に大阪府立エル・シアターで開催し、演奏者は斉藤建寛氏(チェロ)他6名で参加者は554名でした。
2. 「第8回いずみホール音楽会」を平成28年2月11日にいずみホールで開催し、演奏者は大阪音楽大学ジャズオーケストラで828名の参加者を得ることが出来ました。

<福祉部>

1. 「普通救命講習会」を大阪市消防振興協会により、平成27年9月15日、17日に大阪市教育会館で開催しました。
2. 特別公開講座『もず唱平が語る「なにわの歌作り半世紀」』を平成28年1月21日

になにわのみやホールで開催し、参加者は109名を得ることが出来ました。

3. 「日本酒うんちく講座」を平成28年1月22日に開催し、講師は株式会社神戸酒心館湊本雅和支配人で参加者は166名と大変好評を得ました。

<大阪アクティブシニア協会部>

1. 大阪府委託事業「アクティブシニアが溢れる大阪事業」を府下6ブロックにおいて「入門講座」「実践講座」を開催しました。
2. 大阪府福祉基金地域福祉振興助成事業として、大阪府立生野聴覚支援学校、大阪市立聴覚特別支援学校、豊中きらら福祉会に出前をし、支援活動事業を実施しました。
3. 「アクティブシニアフェスタ 2016」を大阪市立北区民センターにおいて、平成28年3月2日に開催し、約1,000名の来場者で盛況でした。
4. 大阪市内小学校いきいき教室、全労済他の催事などに出前講師を派遣しました。

● 情報管理部門

<ホームページ部>

1. 広報部から情報管理部に移管して、高大「イベント」の告知と取材、報告のスピードアップをはかり、スマートホンでも対応出来るように改良し、イメージアップを図りました。
2. 募集要項、オープンキャンパス、講座説明会、カリキュラムと募集の情報を11月から2月末までリアルタイムに掲載し、新しい情報提供に努めました。
3. クラスブログは25クラス、1クラブが立ち上がり、高大ホームページにリンクし、クラスの活動状況を一般にアピール出来るようにしました。

● 総括部門

<広報部>

1. 高大広報紙「れいんぼー」、「れいんぼー・絆」の発行
 - (1) 高大広報誌「れいんぼー」は年4回(6月・9月・1月・3月)発行し、新年の1月号より新たな試みにより編集を一変し、オールカラーとしてスタートいたしました。皆さんの感想をお待ちしております。
 - (2) 高大と校友会による共同機関紙「れいんぼー・絆」は「れいんぼー」と紙面構成が重複等の指摘により6月号をもって休刊とし、校友会関連は「れいんぼー」に、ページ数を増やし、特集号として掲載しました。
2. 広報部は平成28年度より、新たに新設した広報部門に入って広報紙の紙面充実に努めます。

<事務局>

1. 平成27年度は64科目にてスタートし、大阪市教育会館・住之江公園・社会福祉会

館・社会福祉センター・森ノ宮教室の5会場に教室が分散運営となりました。

CDの皆さんの協力と各教室の管理団体と運営管理事項の確認等、意思疎通を図ることにより、無事修了生を送り出すことが出来ました。

関係管理団体に感謝申し上げます。

2. 4階事務所が手狭になり6月に事務所の移転を行い、講師控室、会議室、CDコーナー、倉庫も広さが倍となり充実した環境で運営出来るようになりました。

<ファンド・社会事業部>

認定NPO法人申請について、会員の皆様に大変御迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。また、シニア子ども活動基金はイベント等の募金活動が残念ながら低調に推移しました。今後の募金活動の在り方について再構築いたします。

● 戦略室

<調査部・政策部>

1. 大阪府アクティブシニア政策勉強会も5年目に入り、昨年度に引き続き大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を受けて「健康長寿学研究会」の「高齢者の生活課題を考える」セミナーを開催しました。7月から延べ6回に亘り有識者から講義形式による研究会を行いました。一般市民を含む述べ約220名の参加があり、アンケート等からも高い評価を得ることが出来ました。
2. 平成28年1月には大阪府アクティブシニア政策勉強会「健康長寿学研究会」のまとめとして、近畿労働金庫支援事業としてシンポジウムを開催しました。これにより「高齢者の生活課題」について今後の活動展開の考え方を整理することが出来ました。
3. 高大発足当初から大阪大学名誉教授の藤田綾子先生はじめ大阪教育大学堀薫夫教授、大阪市立大学大学院柏木宏教授、静岡大学小和田哲男教授、関西学院大学陳礼美教授から高大の政策展開に強力な協力関係をいただいたが、引き続き高大運営に対する支援を得るため高大プロフェッサー制度を設け、各先生方から受諾をいただきました。平成27年7月15日に「第1回高大プロフェッサー会議」を開催し、年度末までに大阪大学大学院佐藤眞一教授を含む6名の高大プロフェッサーを得られ強力な支援体制の強化を図ることが出来ました。
4. 「高大10周年記念誌」の発行については8月に高大内において「10周年記念誌編集実行委員会」を18名で立ち上げ、年末には(株)ミネルヴァ書房と出版契約を締結し、1月より具体的な出版に向けた作業を開始する運びとなりました。

<人材発掘事業開発部>

「ふれあいカフェ」と呼称し、CD及び受講生の推薦を基本にして7月から10月にかけて3度にわたって開催し、高大の現状と課題などを討論するため現受講生延べ40名の参加者を得ました。本来の活動主旨である高大を更に発展させるため在校受講生の意見交換による課題の掘り起しは、欠かすことの出来ない必須の活動と考えます。

同時に多様で多才な受講生の中から、高大の活動に参画可能な人材の発掘も期待できるものと考えます。

● 募集委員会

1. 第1回募集委員会を7月1日に開催し、前年度の応募結果と、科目選定と定員及び地域別受講者の分布を分析、検討しました。「平成28年度受講生募集」は募集開始日を平成27年10月1日、募集締切日を12月11日午後5時までとし、大阪府からのプレス発表を9月初旬にするように依頼しました。
 - (1) 高大に初めて受講される「優先入学制度」を導入し新規入学を促進しました。
 - (2) 年齢・居住制限に拘らず自由に受講して頂くようにしました。
2. 本科45科目、SA養成3科目、実践15科目で計63科目2,717名を募集しました。昨年に比べ「宇宙と生命の神秘へ遭遇する科」「醸造を楽しく学ぶ科」「おしゃれを楽しみません科」と3科目を新しく増設し、「科学と人間の共生を楽しく学ぶ科を統合」「歴史学古代研究科」「世界史からグローバル社会を見つめ直す科」「朗読研究科」の4科目を休講といたしました。
3. 大阪府の府政だより・大阪市・堺市ほか各市に区民だより・市政だよりに掲載依頼し掲載をして頂きました。
4. 募集要項は7万5千部印刷し、大阪府・大阪市・堺市の公共施設のご協力をいただき配布しました。また、大阪市サービスカウンター3か所とピース大阪の地下鉄ラック5か所にも配布し、大阪中央図書館での高大概況展・美術展でも配布しました。
5. 新聞広告(読売・朝日・毎日)は従来とは異なるイメージ広告をし、「いちょう並木」の裏面に募集要項の全面広告を告知しました。
6. 講座説明会は本校2回、千里、枚方、堺東(前年難波)と5回実施、オープンキャンパスは10月14日、10月30日の2回実施し、募集の浸透をはかりました。
7. 市政だより、区民だよりの掲載状況を校友会・地区SA・同窓会に依頼し、CDには10月、11月と募集要項の残数補充チェックを依頼し徹底を図りました。
8. HPではリアルタイムな応募状況の更新により、閲覧数も増え、申込数の増加に繋がる有力な情報発信手段となりました。
9. その結果、「平成28年度受講生募集」は63科目2,605名(昨年2,490名)の受講生の入学が決定しました。

● 5年先を見据えた戦略アクション委員会

1. 平成26年度に策定した「5年先を見据えた戦略」を実現可能にすべく、また、各部門の活動状況を見え易くするために戦略アクション会議を設け、定期的を開催しました。
2. 先行して活動できている部門、もう少し力を発揮する必要がある部門もあり、部門間での活動の差が出ました。
3. 一方では、快適な学習の場の提供(ソフト面)、目標が同じ生涯学習校との連携強化・協力活動・友好活動推進、修了後の活動の場(同期同窓会)の拡大促進などは、明

るい兆しが見えてきました。

4. 「生き生き総合システム大学校」を目指して、次年度以降も継続的に活動することになりました。

● 第5回スポーツ交流大会報告

今年は「仲間と笑顔、元気な輪」をテーマとして、大勢の皆さんに参加していただき、無事故で終わることが出来ました。参加者数としては、高大の受講生が約 2,000 名、区民カレッジおよび校友会が約 200 名、クラスディレクターおよび高大事務局が約 140 名で、合計約 2,340 名でした。

イベントとして、阿波おどり、河内音頭、高大クイズ王を取り上げました。特に今年初めて実施した阿波おどりは「にしき連」の方々にボランティアで参加していただき、大変好評でした。また、お昼の休憩時間を通して、校友会の河内音頭の連の踊りに多くの参加者も加わり、盛り上げていただきました。さらに、今年は養父市の出店を高大祭からスポーツ交流大会に移し、皆さんの御協力を得て、大繁盛となりました。

スペースの関係から、競技種目を 4 種目から 3 種目にしましたが、1 クラスの出場人数が減り、受講生の少ないクラスは同じ人が何度も出場することがなくなりましたが、多いクラスは一度も出場しない人が多く出るなどがあり、今後の対策として、多いクラスと少ないクラスの混合チームとしての参加や、多いクラスを 2 チームに分割するなどの検討をしなければならない課題もあります。

また、放送設備は今回初めて設備業者を入れ、スピーカーを 6 台設置したことにより、コート内の放送は昨年より改善されて好評でしたが、すべてのスピーカーをコートに向けて設置したため、客席は非常に聞きづらかった。来年度は観客席への効果も考慮する必要があります。

体力測定は約 750 名（昨年比 200 名増）が参加され、行列ができて測定をあきらめた方もおられました。今後は測定器具のセット数の増強も含め対策を検討します。

なお、前年からの情報伝達が十分でなかった点があり、実行委員会のメンバーが苦労しました。今年度はハードコピー・ソフトを含めてあらゆる情報をまとめましたので、活用して頂きたいと思います。

● 高大祭

平成 27 年度は、「皆で楽しく参加、絆を深め、高大祭を盛り上げよう」をスローガンの基に、受講生が主体となり高大の協働体制で推進し、各科の学習成果やクラブ活動の成果の発表の場として開催。また、高大祭発表の活動を通して仲間同士の交流と親睦をさらに深めると共に、高大の文化力向上にも繋がりました。さらに、過去の運営ノウハウを継承出来る様に、本年度も昨年の各部門責任者の協力を得て「アドバイザー制」を導入することで円滑な運営を実施しました。

1. 高大祭開催の概要

- ・実施日時 : 平成 27 年 12 月 18 日 10 時 ~ 15 時
- ・場 所 : 吹田メイシアター

- ・ 目 的 : 全受講生が主体となり高大と協働体制で推進すると共に、学習成果及びクラブ活動の成果発表の活動を通じて、仲間同士の交流と親睦を深めると共に、高大祭の文化力向上を図る事を目的として開催する。
加えて、大阪区民カレッジ、校友会にも参加を頂き、受講生ならびに高大関係者との相互交流を図る。
- ・ 運 営 : (1)「高大祭」に名称を変更して3年目の開催で、名称も関係者全員に定着しました。
(2) 高大祭を運営推進するために学習事業実行委員会を平成27年6月に立ち上げました。各科クラス委員長から各6部門の部長及び部長を選出し、自主的な運営としました。
(3) ①展示、②演芸、③模擬店、④バザー、⑤総務・会計、⑥広報記録の6部門を設けました。
(4) 準備業務のスムーズ化と高大祭ノウハウを継承する目的で、昨年と同様アドバイザー制を導入しました。
(5) 開催内容の充実と密度の濃い高大祭を目指して、本年度も時間短縮を継承して、開催時間を午後3時までとしました。
- ・ 参 加 者 : 約2,570名（参加対象：64科受講生、高大関係者、大阪区民カレッジ校友会、OB、一般）

2. 各部門の活動状況

- ・ 展示部門
使用パネル 337 枚（49 科、事業部、クラブ、大阪区民カレッジ、校友会）で、日頃の学習成果を展示しました。
- ・ 演芸部門
出演演目数 35 演目（各科 27 演目、クラブ 8 演目）で熱演しました。
- ・ 模擬店部門では弁当、コーヒ他を販売しました。
- ・ バザー部門では、受講生、高大関係者、校友会、大阪区民カレッジからも商品提供を受けました。
- ・ 東日本大震災被災地への義援金
本年度は、バザー売上金から、20 万円を義援金として平成 28 年 8 月の東北支援ボランティア・ツアーで現地へ持参し活用して頂きます。

● 学習成果発表会

一年間の学習の総まとめとして、平成28年3月7日～11日に全クラスで学習成果発表会を行いました。班単位の発表や個人別発表など各科の特徴を生かし、創意工夫に富んだ盛り沢山な内容でした。

受講生自身が企画・運営する展示会や展覧会を大阪市総合学習センターなどで開催し、学習成果を外部に対して発表する取り組みも行われました。

なお、活動成果をまとめられた文集や映像のコンパクトディスクなどは、今後の受講

生の活動の参考にするため高大事務所（講師控室）に保管しています。

● 遠足

春秋の遠足を実施しました。行先は、近郊の大阪府下をはじめ、京都、奈良、兵庫を含めた手軽な近畿圏であり、特に春の遠足は大阪近郊に人気がありました。また、春秋共にクラスの自主企画による遠足が殆どでした。

移動手段は、貸切りバスの利用は14%程度で大半が公共交通を利用して行われました。大過なく安全に終わることができたことは、何よりも喜びであり、クラスの融和に寄与出来たものと思います。

実施日 春の遠足 平成27年5月18日～平成27年5月22日

秋の遠足 平成27年11月2日～平成27年11月10日

注) 一部の科に実施日の変更がありました

行先別集計

	春の遠足	秋の遠足	合計
大阪市内	8科	—	8科
大阪府下	29科	14科	43科
京都・奈良・兵庫	25科	45科	70科
滋賀・和歌山・三重	2科	5科	7科

● 修学旅行

修学旅行を実施しました。行先は、主に京都、奈良、兵庫など近畿圏（75%）で、貸切りバスツアー（69%）が企画されました。宿泊は昨年と同程度の20科（31%）でした。今年も3科で海外旅行（韓国：2科・中国：1科）が実施されました。

実施日 平成28年3月14日～平成28年3月18日

（注）一部の科に実施日の変更がありました。

行先別集計

大阪	6科
京都・奈良	5科
近畿（滋賀・和歌山・兵庫）	37科
中部・東海地方（三重・岐阜・福井）	6科
四国地方（徳島）	3科
中国地方（岡山・島根）	4科
その他（韓国・中国）	3科

（貸切りバス）：44科、（公共交通）：17科、（飛行機）：3科

宿泊旅行：20科（2泊以上3科）

● 高大なにわの宮会

高大方針の【生涯学習機関としての社会的使命をはたし、“生き生き総合システム大学”を目指す】を展開する上で、当事者が高大の理念と目指すべき方向を理解し、一

体感をもって共通の目標に向かうことのできる環境（校風）作りを目指しています。このための意識改革運動を「高大なにわの宮会」と称して、本年度より新たに取り組みました。

1. 活動は、受講生、CD、高大スタッフ、講師、校友会の5者間の垣根、隙間を取り除き、一体感を醸成することを目指しています。
2. 推進体制の母体となる「なにわの宮実行委員会」は、高大スタッフの全面的協力を得ながら、活動の計画、推進、フォローを行い、活動状況の報告は、部門長会議等で行いました。
3. 主な活動内容と実績は以下の通りです。

(1)交流会

交流会を通して、高大の方針、運営、環境などについての意見、要望、提案を幅広く吸い上げ、問題点の解決を図り、その結果をフィードバックすることを目指しました。その一連のサイクルが恒常的に廻る仕組みを作ることが、最終的な目標となります。

実績は次の通りです。

高大スタッフ内	2回	(7月24日、11月5日)
校友会と受講生間	6回	(10月22日～1月9日)
スタッフ・CDと講師間	1回	(11月17日)

(2)挨拶運動

挨拶運動は、コミュニケーションの原点であり、一体感を創出していく上での出発点となる挨拶を広めて行く活動は、平成28年度から本格的に実施にする為の準備を進めました。

(3)広報活動

なにわの宮会の活動を多くの人に知っていただき、関心を持ってその活動に参加していただくために、広報活動等の諸活動を行うことにしました。

実績としては、お題が「高大」の川柳を募集し、136句の応募を得ました。その中から優秀作12句を広報紙「れいんぼー32号」に掲載いたしました。

● クラブ活動

40クラブ(前年度49クラブ)が申請、許可され753人の受講生が参加しました。早期の立ち上げを図る為、4月中旬から申請を開始し、5月末時点で14クラブ、6月末時点では33クラブ(83%)が立ち上がりました。教室利用と校外活動クラブの比率は29対11で昨年度よりは校外活動の比率が17%上がりました。

昨年度は高大祭の準備の時期にクラブ活動のために使える教室が少なく苦労した経験から、今年度は月2回の活動を最大としたため、教室がなく準備場所の確保に苦労する事は解消されました。

しかし、結果的には、その時期は2学期のみで良かったのではないかとの反省から来年度は1学期3学期は最大月4回使用、2学期のみ月2回の使用を検討します。

さらに来年度の高大祭は、発表スペースや発表舞台が増えることから、クラブ活動のモチベーションを上げることに繋がる事も期待出来ます。

最後に1年間を通して事故報告がなかったことは関係者一同の喜びでもありました。

平成27年度「クラブ活動」一覧表

		クラブ名	科 目
月	1	英語で話そう会	英会話交流を楽しむ科②
	2	月曜マジックを楽しむ科	曜日
	3	英会話を楽しむ科	基礎英会話科③
	4	ちぎり絵	歴史に輝く女性の生き方に学ぶ科
	5	中国語を楽しむ科	初めての中国語を楽しく学ぶ科
	6	パレフォトクラブ	カメラ技術研究科
	7	高大朋映詩吟クラブ	歴史に輝く女性の生き方に学ぶ科
	8	国際交流ワンワールド	国際文化交流科
	9	太極柔力球	シニアの健康と医療を優しく学ぶ科
火	1	美術・絵画を楽しもう会	基礎美術科①
	2	高大南京玉すだれ	和食を愛する科
	3	英語クラブフューチャー	英会話交流を楽しむ科
	4	玩具・折り紙クラブ	音楽鑑賞を深める科
	5	やさしい英会話クラブ	基礎英会話科②
	6	ハーモニカでも吹こう会	歴史学古代科
	7	卓球クラブ	アウトドア・レクリエーション科
水	1	オカリナクラブ	マンガ風イラストを楽しむ科
	2	パソ活クラブ	IT・パソコン中級科 web コース
	3	音を楽しみませんか?	大阪の史跡探訪科
木	1	エッセー研究会	エッセー文学科
	2	朗読クラブ	朗読研究科
	3	ハーモニカでも吹こう会	歴史学古代科
	4	木曜マジックを楽しむ科	カメラ芸術科
	5	カーリンコンクラブ	おもしろ「こども科学・手作りおもちゃ体験」科
金	1	英会話エンジョイクラブ	基礎英会話科①
	2	Aiiez·y en Franse	フランスの魅力と初めてのフランス語を楽しむ科
	3	みんなでコーラス	音楽を楽しむ科
	4	基美友の会	基礎美術科
	5	社交ダンスで生き生き人生	音楽を楽しむ科
全	1	駅伝クラブ	教務部
	2	史跡めぐり部	歴史学古代研究科
	3	高大49番ハイキングクラブ	アウトドア・レクリエーション科
	4	写真倶楽部写楽会	歴史に輝く女性の生き方に学ぶ科
	5	古代史をたのしもうかい	歴史学古代科
	6	歴史街道探訪	アウトドア・レクリエーション科
	7	ボウリングクラブ	エッセー文学科
	8	マレットゴルフクラブ	教務部
	9	高大ハイキングクラブ	アウトドア・レクリエーション科
	10	高大くいだおれ	和食を愛する科
	11	ノルディックウォーキングを楽しむ会	運動・スポーツ・健康科